# 令和6年度

# 学校評価報告書

## 綾瀬市立北の台小学校

| そう思う | ややそう思う | あまり思わない | そう思わない | わからない |
|---|---|---|---|---|

実施日:12/13

回答数: 児童　439名
保護者 349名
教職員　23名

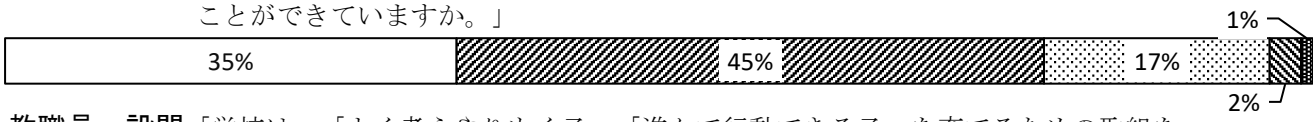
## 1　学校は、「よく考えやりぬく子」「進んで行動できる子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

**学校の取組**

本校は、「よく考え やりぬく子」「進んで行動できる子」に迫るため、これまで「すすんで学び合う子の育成をめざして」をテーマに校内研究を重ねてきました。今年度も「『聴いて、考えて、伝え合う』力を」というサブテーマの下、児童同士の「話合い」や「学び合い」を通して、学習に粘り強く取り組めるような「主体的・対話的で深い学び」の実現と「教科の枠を超えて活用できる力」の育成をめざしています。伝え合いの充実のために、「伝え合うための北の台モデル」を活用するとともに、子ども達が「考えたい」「伝えたい」と思えるような課題を設定するなど、授業改善に取り組んでいます。また、小中一貫教育の取組として、９年間の学びの継続性を図るため、「あやせ型授業モデル」を基に、めあてと振り返りを大切にした授業づくりを行っています。

**児童　設問**「学校で学んで身に付けたことを他の教科の勉強や生活の中でいかすことができましたか。」

**保護者　設問**「お子さまは、学校で学んだことを家庭や地域といった学校外の場面でいかすことができていますか。」




**教職員　設問**「学校は、「よく考えやりぬく子」「進んで行動できる子」を育てるための取組を、学年や学級経営の中で行っている。」

**今後に向けて**

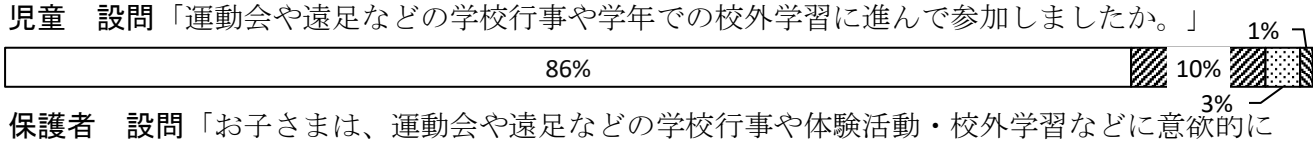
およそ８割の児童が、学びを関連付けて捉え、学んだことを他教科や生活の中でいかすことができていると回答しています。「学びを関連付けて自分の力にする子」という目指す子ども像の実現に向けて、児童同士の話合いや学び合いの時間を大切にしながら学習を進めたり、発達段階に応じた家庭学習や自ら学習課題を決めて取り組む自主学習を推進したりしてきた結果だと考えられます。今後も児童の学びに対する達成感や充実感を高められるよう、自力解決や「話合い」「学び合い」の時間をしっかりと確保し、苦手な学習や家庭学習にも意欲的かつ自主的に取り組んでいけるような児童の育成を目指します。

## 2　児童は、「学校行事や児童会活動など、特別活動」に積極的に参加している。

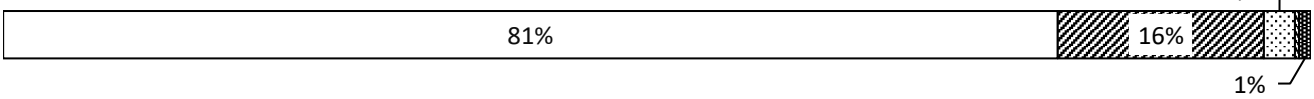
**学校の取組**

本校では、特別活動(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事)を通して、学校教育目標である「進んで行動できる子」を育てていこうとしています。児童の主体性の向上を目指して、教師がそれぞれの活動のめあてを明確にし、児童の関心や意欲を高め、児童が主体となって自分たちの力で計画・運営していく活動にしていこうとするような声かけや支援を工夫しながら行いました。

**児童　設問**「運動会や遠足などの学校行事や学年での校外学習に進んで参加しましたか。」




**保護者　設問**「お子さまは、運動会や遠足などの学校行事や体験活動・校外学習などに意欲的に参加していますか。」




**今後に向けて**

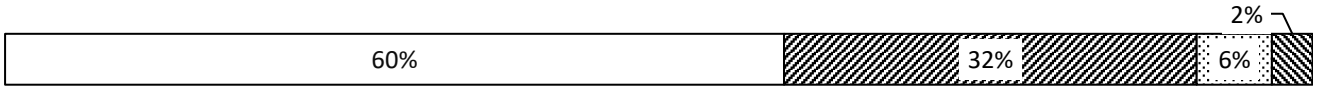
児童は、教科学習だけではなく、遠足、運動会、なかよしタイム(異学年交流活動)などの特別活動にも意欲的に取り組んでいます。また、そのような児童の姿を保護者も認めていることがうかがえます。学校は、このような児童の姿を継続または向上させることができるように、児童の実態をしっかりと把握し、教育効果が上がるような特別活動の内容や教育課程等の見直しを行っていきます。

## 3　学校は、「広い心で思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。

**学校の取組**

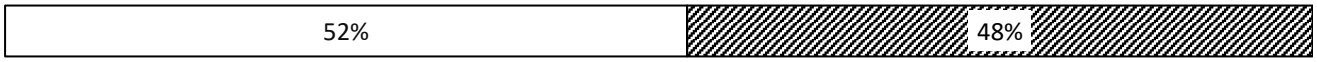
本校では、学校教育目標の一つである「広い心で思いやりのある子」を育てるために、道徳の授業を充実させるとともに、全校で行っているなかよしタイム（異学年交流活動）の活動等を通して思いやりの気持ちが育つように努めています。

**児童　設問**「なかよしタイムやほかの学年との交流のときなど「思いやりの心」をもって行動しましたか。」




**保護者　設問**「学校は道徳の学習やなかよしタイムなどの指導を通して、「思いやりの心」の心の育成に努めていますか。」

**教職員　設問**「学校は、「広い心で思いやりのある子」を育てるための取組を、学年や学級経営の中で行っている。」




**今後に向けて**

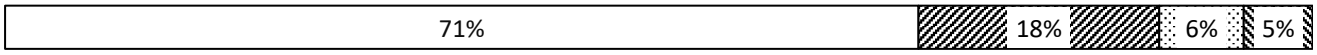
ほとんどの児童が思いやりの心をもって行動できていると回答しています。なかよしタイムや異学年交流では、下級生に親切に接する高学年児童の姿が多く見られます。今年は、「児童の心が動く授業づくり」「考え議論する道徳の時間」を目指して取り組んできました。学校だよりで特別な教科「道徳」の授業での児童の様子をお知らせすることもできました。これからも特別な教科「道徳」の授業や異学年交流などの取組をより充実させ、思いやりの心をもって行動できる児童の育成

## 4　児童は、友人や先生との学校生活に満足している。

**学校の取組**

本校では、学校は「児童が集団生活の中で楽しく学習できる場」であり、「教師や友達と共に安心して過ごせる場」であるべきだと捉えています。そのために、項目１で述べたような授業改善を図ったり、特別活動などの取組内容を見直したりすることで、全ての児童がやりがいや満足感、自己有用感をもてるようにして、その実現を目指しています。

**児童　設問**「友達や先生と学校生活を楽しくすごせましたか。」




**今後に向けて**

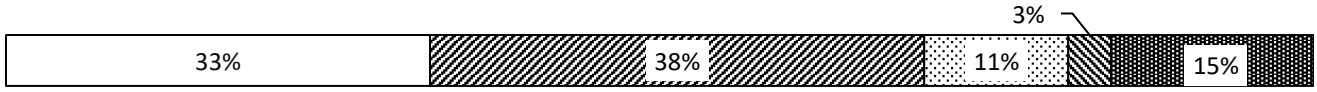
今年度も、およそ９割の児童が学校生活に満足しているという結果となり喜ばしく思う一方、少人数とはいえ「あまり思わない」「そう思わない」という児童が存在しているということ、学級で過ごすことのできない児童や登校することのできていない児童がいることをしっかりと受け止めなければなりません。全ての児童が学ぶ楽しさや学校生活の楽しさを実感できるように、これまで以上に努めていきます。

## 5　学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

**学校の取組**

本校では、全校児童一人ひとりに全職員が関わり見守っていくことで、職員全体で情報を共有し、いじめなどの様々な問題、課題に対処、対応できるようにしています。毎月実施しているスクールアンケートだけでなく、日常的な観察により、児童の些細な変化を見逃さずに声をかけるように努めています。児童指導についてはその事実確認と原因究明を迅速に行い、チームで対策を立てて指導につなげるなど再発防止に努めています。また、気になることは、同じ学年の職員はもちろん、低・中・高学年のブロックや、スクールカウンセラー、管理職などへ報告、相談し、必要があれば直ちに措置をとれるような体制をとっています。

**保護者　設問**「学校は、スクールアンケートや児童指導を通して、いじめの早期発見に努めたり、再発防止に努めたりしていると思いますか。」




**教職員　設問**「学校は、スクールアンケートや児童指導を通して、いじめの早期発見に努めたり、再発防止に努めたりしていると思いますか。」

**今後に向けて**

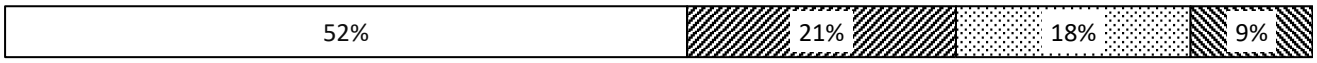
いじめの早期発見、再発防止については、保護者と教職員の数値に開きがあることは残念に思います。しかし、「あまり思わない」「思わない」「わからない」と答えた保護者が昨年度より減少し、「そう思う」「ややそう思う」が12ポイント増加しました。今年度の学校の取組に対する保護者の理解が増加したことを前向きに受け止め今後も全職員で連携して指導を行っていきます。保護者に向けては、学校だよりや学年だよりなどを通じて、いじめ問題に真剣に向き合っていることを積極的に発信して信頼を得ることができるよう努めていきます。また、児童側からも代表委員会などを通じて「決していじめをしない。ゆるさない。」という気持ちを発信していったり、「いじめ防止宣言」に取り組んだりするとともに、異学年交流活動で思いやりの心情を育むことができるように、教職員が思いや意図をもって児童と関わっていくよう努めていきます。

## 6　学校は、「明るく健康な子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。

**学校の取組**

本校では、体育の授業、学級活動、学校行事などを通して、健康保持、けがや病気の予防、体力の増進、心の健康などの指導を行っています。毎学期の「生活リズム大作戦」の取組により、よい生活習慣の定着を図ったり、３学期始めになわとびカードを児童一人ひとりに配付し、体育の学習や休み時間に活用して体力づくりへの意欲を高めたりしています。保健指導では、外遊びは体力向上や視力低下予防につながることや、正しい服薬の仕方について等の指導も行いました。学校保健委員会では、市の保健師による「SOSの出し方」についての講演会を６年生対象に開催し、心の健康について考える機会を設けました。

**児童　設問**「業間休みや昼休みに、外で遊んだり運動したりしましたか。」




**保護者　設問**「学校は、体育の学習や外遊びを推奨すること等を通して、体力の向上を図っていると思いますか。」

**教職員　設問**「学校は、「明るく健康な子」を育てるための取組を、学年や学級経営の中で行っている。」

今後に向けて

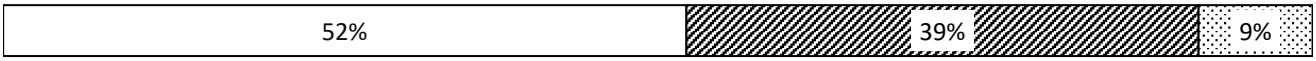
本校では、今後も熱中症対策を十分に行い、季節を問わず、児童が業間休みや昼休みに外で元気に遊ぶことを促していきます。体育科の授業の充実を図るとともに、児童が楽しみながら体力の向上やけが・病気の予防、健康の保持増進を図れるような取組を工夫し、本校の児童が心身ともに明るく健康に過ごせるように努めていきます。

## 7　学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

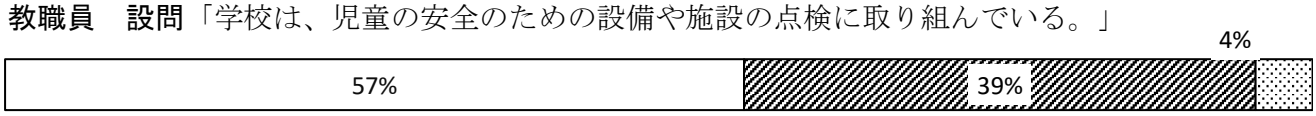
学校の取組

交通事故、火事、地震、不審者など、児童の周りには常に危険が潜んでいます。学校では、それらの危険から身を守ることについて、学級活動や学校行事などを通して指導を徹底しています。今年度も、３学期には児童に実施日を知らせずに避難訓練を行い、有事の際に児童一人ひとりが自ら考えて行動できる力の育成を図りました。また、毎月定期的に施設の安全点検を行うほか、不備に気付いた場合はすぐに管理職に報告し、迅速に改善する体制を取り、その状況についての情報を共有しています。

教職員　設問「学校は児童の安全のための指導に取り組んでいる。」




教職員　設問「学校は、児童の安全のための設備や施設の点検に取り組んでいる。」




今後に向けて

児童の安全に対する職員の意識は高いものがあります。学校が児童にとって安全な場所であることを保証し、児童に安心感をもたせるために、職員の高い危機管理意識を維持していくことが大切だと考えます。そのために、施設の安全点検や児童への安全指導の取組が充実したものになるよう努めていきます。そして、児童一人ひとりが自ら多面的に考え、判断し行動できる力を育成するよう指導を工夫していきます。また、子ども達が安心して地域で過ごすことができるように、より一層保護者や地域の方とも協力し、安全対策に取り組んでいかれるよう、努めていきます。

## 8　学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では、全職員が児童一人ひとりに目を向け、寄り添うことによって児童の状態を把握し、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや医療機関などとも連携しながら、必要に応じた支援を行っています。また、学習支援者による一人ひとりの児童に対応した学習・集団適応支援にも努めています。さらに、児童理解を進めるための職員研修を行ったり、学習支援の体制を学期ごとに見直したりするなど、よりよい支援・指導となるように工夫しています。今年度より、不登校児童の学校復帰の支援や不登校の未然防止等のためのサポートルームが導入され、よりていねいな支援や対応に努めています。

教職員　設問「学校は、児童理解に努め, 児童の支援に取り組んでいる。」

今後に向けて

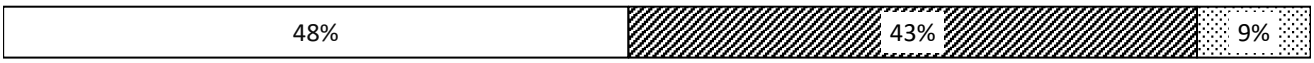
この件に関する職員の意識は高く、学校全体で児童の理解と支援に努めていることがうかがえますが、継続することがとても重要なので、これからも職員の意識を維持していく必要があります。学校は全児童の成長を願い、個に応じたよりよい支援や指導が行われるよう、児童の学校生活の様子をしっかりと把握し、情報の共有化を図っていきます。また、学習だけでなく、友だち関係等で困り感をもつ児童が増えていると感じるため、学校全体の支援体制を整え、他機関との連携を深めるなどの取組を続けていくことが大切だと考えます。

## 9　校長を中心とした運営組織になっている。

**学校の取組**

綾瀬市では、校長、教頭の下に四つのグループを設けて全職員で業務を分掌し、それぞれのグループリーダー(総括教諭)を中心として企画、運営をするという組織になっています。校長が学校経営構想である「北の台小学校グランドデザイン」を掲げたうえで、各グループはそれに則り、子ども達の資質・能力の育成が図れるような企画を考え、校長・教頭・総括教諭からなる企画会議で検討し、職員会議で周知します。校長の学校経営ビジョンを具現化するために、教育課程（カリキュラム）の編成・実施・評価・改善を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高めるカリキュラムマネジメントを全職員が意識して取り組んでいます。

**教職員　設問**「学校は、校長のビジョンのもと、企画会議・グループ会議を中心に学校運営に努めている。」




**今後に向けて**

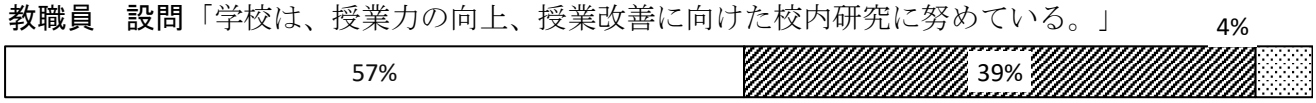
「そう思わない」と回答した職員の割合が昨年度は９％だったのに対して、今年度は０％になっています。職員が一丸となり学校運営に取り組む意識がより高まってることがうかがえます。しかし、学校教育目標を具現化するためには、さらに全職員がそれぞれの立場を自覚し、学校運営に参画することが必要です。今後も、すべての児童のよりよい成長を願うことを第一とした企画や運営を心がけ、その評価を適切に行い、より質の高い学校運営へと改善していけるように努めていきます。

## 10　学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

**学校の取組**

本校では、『すすんで学び合う子の育成をめざして～「聴いて、考えて、伝え合う」力を～』をテーマに校内研究に取り組んでいます。今年は目指す子ども像を「多面的に考え、表現できる子」と掲げ、考える力の育成を重点目標に、教職員がお互いに授業を見合って研究協議をしたり、外部講師を招いて指導講評を受けたりして、授業力の向上に努めています。また、長期休業中には、校内で授業力向上のための研修を行ったり、教育研究所や教育センターなどの研修講座へ参加したりするなどして、教職員の自己研修、研鑽を促しています。

**教職員　設問**「学校は、授業力の向上、授業改善に向けた校内研究に努めている。」




**教職員　設問**「学校は、教師の力量を高めるために研修・研鑽に努めている。」

**今後に向けて**

校内研究においては、同テーマでの研究が９年目を迎えました。児童の実態は時代の変化と共に変容してきており、児童に合った指導方法や教材・教具も研究開発されています。本校では、子ども達が将来必要とされる力を身に付けることができるよう、校内研究や研修等を通して、教材研究や授業改善に取り組んでいきます。一方で、教材研究や授業改善への意欲はあるものの、それ以外の業務に時間を取られ、十分にできていないという面もあります。今後も限られた時間を有効に活用できる手立てを工夫しながら、教職員の資質・力量の向上につなげていきたいと思います。

## 11　学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

**学校の取組**

本校では、ここまでに述べてきたように、一人ひとりの児童が「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」を身につけ、「生きる力」を育んでいけるようにするため、様々な工夫を凝らして教育活動に取り組んでいます。

**保護者**　設問「学校は子ども達の日常の様子に気を配り、よい点を認め伸ばす努力をしていると思いますか。」

**教職員**　設問「学校は、よりよい児童の成長のために、共通理解を図りながら児童指導に取り組んでいる。」

**今後に向けて**

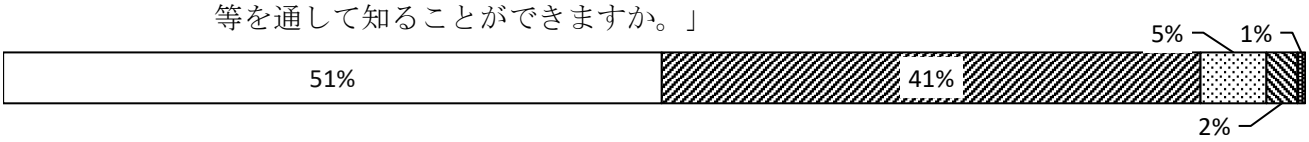
「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者の割合が、昨年度より９％増加しており、およそ８割の保護者が学校の取組を肯定的に受け止めてくださっています。保護者と教職員の意識の差が縮まったとは言え、依然として差がある状況です。学校はこの結果を謙虚に受け止め、全職員でよりよい児童の成長につながるように努めてまいります。

## 12　学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

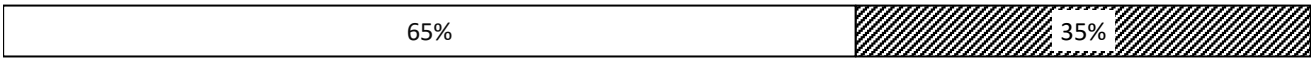
**学校の取組**

本校では、学校・学年だよりを定期的に、学級だよりを必要に応じて発行しています。学校だよりは、昨年度同様学校ホームページでの確認もできるようになっています。また、年間５回の授業参観（うち１回は一日学校参観日）と２回の懇談会、さらに個別面談を年間２回実施するなど、様々な形で情報を発信する機会を設けています。学校の取組や児童の様子を伝えることは、学校を理解してもらう上で必要不可欠なものだと考えています。

**保護者**　設問「学校の様子を学校だより・学年だよりや懇談会、家庭への訪問や個別面談、相談等を通して知ることができますか。」




**教職員**　設問「学校は、学年便り、懇談会、家庭への訪問、個別面談、相談等を通し保護者との相互理解に努めている。」




**今後に向けて**

「そう思う」と回答した保護者の割合が、昨年度から１０％増加しています。また、学校から発信した情報は、およそ９割の保護者に届き、理解されているようです。今後も、学校は保護者に、教育方針や学校運営の方向性、教師の思いや願い等をできるだけ多く発信する機会を設け、それらをさらにわかりやすく伝えられるような工夫を行うことで、保護者、地域の理解や意見を得ながら、よりよい教育活動を目指していきます。

調査結果の提示は、
「児童・生徒」
「保護者」
「教職員」
から、各1つずつ掲載

*

*

調査結果の提示は、
「児童・生徒」
「保護者」
「教職員」
から、1つずつ掲載

調査結果の提示は、
「児童・生徒」
のみ1つ掲載